

2017年（平成29年）5月31日（水曜日）

社会

総合

山

形

新

月



清河神社境内に梅の苗木を植える（左から）矢口正武さん、正木尚文宮司、菅原善一さん＝庄内町

投獄され死別 清河八郎の妻・お蓮

160年越しの“嫁入り”

庄内町出身で激動の幕末期を駆けた志士・清河八郎をまつる清河神社（同町）の境内に30日、八郎の妻お蓮の生家で育てられてきた梅の苗木が移植された。同町を中心に活動するNPO法人が発案。遊郭で出会った2人は祝言を挙げなかったといい、160年越しの「嫁入り」に係者約50人が祝った。

◇ ◇
お蓮は1839（天保10）年、現・鶴岡市熊出の医師菅原正庵の娘として生まれた。養女に出された後、地元の遊郭に売られる。ここで八郎と出会い、1856（安政3）年に周囲の反対を押し切って結婚。幕末期、夫が倒幕派として活動したため連座して投獄され、夫より先に亡

庄内町 清河神社 生家で育った苗木移植

くなった。

夫婦の「再会」を発案したのはNPO法人「元氣・まちネッ ト」（東京都）の矢口正武代表理事＝戸沢村出身。庄内町と同村の有志でつくる最上川・陸羽西線活性化委員会が協力した。矢口さんはお蓮が幼少期に登って遊んだといわれる樹齢300年超の梅の木が鶴岡市の生家に残っていると聞き、現在、そこで暮らす菅原善一さん（80）を訪ねた。菅原さんが育ててきた樹齢4年と6年の苗木2本の譲り受け、植樹にこぎ着けたという。この日は清河神社の例大祭。矢口さんは「悲しい別れの後、時空を超えて再び出会った2人の歴史を感じてほしい」と話していた。